



IYC2025 記念 千葉県生協連「ちばの海を守ろう！」キャンペーン 2025年度環境学習会を開催しました！



2025年12月15日（月）に、千葉県生活協同組合連合会の呼びかけの下、「IYC2025 記念 千葉県生協連「ちばの海を守ろう！」キャンペーン 2025年度環境学習会」を開催しました。千葉県協同組合提携推進協議会、こくみん共済コープ千葉推進本部、なのはな生協、生活クラブ生協（千葉）、パルシステム千葉に共催、淑徳大学には後援をいただき、講師、事務局を合わせて38人が参加しました。



今回「国際協同組合年」を記念する継続した取り組みとして、また来春開催予定のビーチクリーンのキックオフとして、千葉県漁業協同組合連合会、環境団体「一宮ウミガメを見守る会」を講師にお願いし、環境学習会を開催しました。

開催にあたり、千葉県生活協同組合連合会（以下、千葉県生協連）

尼崎英之 専務理事より開催挨拶として本学習会の趣旨を説明した後、それぞれの講師から海の現状をお話いただきました。（抄録・文責 事務局）

■千葉県の海と漁業について ～豊かな海を目指して～



講師：千葉県漁業協同組合連合会（JF 千葉漁連）参事 鶴岡裕生さん

銚子漁港は2011年から2022年まで12年連続で年間水揚げ量日本一を記録している、千葉が誇る県内拠点です。また、全国トップクラスの魚種があり、江戸前寿司のネタとなる「コノシロ」や、東京湾の「スズキ」は全国シェアの約7割を占めるなど、全国1位の漁獲量を誇る魚が数多くあります。また、千葉県産の海苔は香りが強く、味が良いのが特徴です。

しかし、多くの魚介藻類といった海の資源は減少しており、漁獲サイズの制限や禁漁期の設営といった「資源管理」が極めて重要です。特に、海水温の上昇により、魚の生息域が北上していること、「磯焼け」や原因不明の食害によって海藻や貝類（アサリ等）が激減しており、深刻な問題となっています。

担い手不足も大きな問題になっており、昭和63年に約12,000人いた就業者は、令和5年には約2,600人まで減少しました。高齢化も深刻で、65歳以上の割合が非常に高くなっています。

そのような中、漁業者の思いは「見た目のきれいな海」ではなく、「魚介藻類が棲息できる豊かな海」にしてゆく事です。消費者の皆さんと一緒に取り組んでゆきたいと思います。



渡部さんからは、ウミガメの生態やビーチクリーンへの思いをお話いただきました。

■ウミガメの調査と環境保全について 講師：一宮ウミガメを見守る会 会長 渡部明美さん



一宮町は、実は千葉県の中でも非常にウミガメの産卵が多い場所です。アカウミガメが卵を産みに来ますが、実は日本が北太平洋で唯一の産卵地であり、千葉県は北限に近い、非常に重要な場所です。卵からかえった子ガメが海に帰り、30年後に親になってまたこの浜に戻ってこられる確率は、数千分の一と言われています。

昔に比べると、砂浜が狭くなってきたり、夜の灯りが明るくなりすぎたりして、カメが海から上がってきにくい環境になっています。ゴミの問題も深刻です。プラスチックゴミを食べてしまったり、放置された網（ゴーストネット）に絡まって身動きが取れなくなってしまう個体もいます。産卵シーズン（概ね5月～8月）になると、毎朝早くに浜を歩いて、ウミガメが上陸した足跡を探します。卵が見つかれば、状況に応じて安全な場所に移植したり、外敵（カラスやタヌキなど）から守るための対策を講じます。そして、孵化して海に帰るまでを静かに見守り続けています。

「見守る会」では、毎月ビーチクリーン活動に取り組んでいます。具体的なゴミ拾いも大切ですが、何より大切なのは「人間以外の生き物のことを考えて想像し、行動すること」です。人間が出したゴミは人間にしか片付けられません。海の生き物に必要なものは、片づけない。私たちのすぐそばに、こんなに一生懸命生きている生き物がいるということを想像してほしいと思います。

また、ウミガメの放流や観察を、子どもたちは本当に喜びます。こうした体験を通じて、次の世代にこの豊かな海の環境をつないでいきたいと考えています。



参加者との質疑応答や意見交換もおこなわれ、最後に司会の千葉県生協連 高山由美子理事から参加者に向けて、来春開催のビーチクリーンの予告と参加の呼び掛けの後、閉会しました。

参加者の感想

- 漁連さんは身近にあるけれど、仕組みや現状など知らないことが沢山あり、貧酸素水塊などの深刻な問題も知ることができました。
- 環境問題について、現状を知ることがとても大切だと思いました。
- 海の環境に興味を持ち続け、自分にできることをすることが大切だと思いました。
- 「豊かな海」という漁連さんの思いと「自然環境に配慮したビーチクリーン」という一宮ウミガメを見守る会の思いには通じるものがある、と感じました。
- 生協連で「ビーチクリーン活動」を開催し、千葉に暮らす人々や海や水資源などの環境について考える機会を作ってほしいです。

